

Strauss Capelle Wien & Alma Deutscher

Johann Strauss II 200th Anniversary Special Concert

program

- J.シュトラウス2世：ポルカ「浮気心」
- J.シュトラウス2世：喜歌劇「こうもり」より
序曲
- A.ドイチャー：ヴァイオリン協奏曲ト長調（抜粋）
- G.ロッシーニ：オペラ『バビロニアのキュロス、またはベルシャザル王の凋落』より
アリア「Chi disprezza gl'infelici」
- F.レハール：ユーモア行進曲
- J.シュトラウス2世：ワルツ「春の声」
- J.シュトラウス2世：ポルカ「雷鳴と稲妻」
- W.A.モーツァルト：歌劇『フィガロの結婚』より 序曲
- J.シュトラウス2世：『南国のバラ』
- A.ドイチャー：ピアノとオーケストラのための日本の歌の幻想曲（世界初演）
- J.シュトラウス2世：クラブフェンの森で「カッコウポルカ」
- A.ドイチャー：ルートヴィヒ（ヴァン・ベートーヴェン）ワルツ
- A.ドイチャー：サイレンのワルツ
- J.シュトラウス2世：ワルツ「美しく青きドナウ」
—アンコール—
- J.シュトラウス1世：ラデツキー行進曲
- F.レハール：喜歌劇『メリーウィドウ』より
「マキシムへ行こう」（明珍宏和）
- A.ドイチャー：即興コーナー

ウィーン・シュトラウス・カペレ 日本ツアー2025年

2025年 6月29日(日) 山形テルサ
2025年 7月1日(火) 住友生命いづみホール
2025年 7月2日(水) 横浜みなとみらいホール
2025年 7月5日(土) アトリオン音楽ホール
2025年 7月6日(日) 愛知県芸術劇場 コンサートホール
2025年 7月7日(月) サントリーホール

第4回 秋田・潟上国際音楽祭

STRAUSS CAPELLE WIEN & ALMA DEUTSCHER

ウィーン・シュトラウス・カペレ (管弦楽団)

& アルマ・ドイチャー



アルマ・ドイチャー (指揮)
Alma Deutscher (conductor)

ヨハン・シュトラウス2世 生誕200周年 スペシャルコンサート

ワルツ「春の声」 / ポルカ「雷鳴と稲妻」 / ワルツ「美しく青きドナウ」 他

2025年 7/5(土) 14:00開演(13:15開場)

アトリオン音楽ホール

秋田県秋田市中通2丁目3-8 アトリオンビル 4階



チケット発売日：一般発売 2025年1月25日(土) 10:00～

全席指定・税込

Sペア券 ¥9,000

S ¥5,000 / A ¥4,000

お問合せ・お申込み：

コンサートイマジン 03-3235-3777 (10:00～18:00/日・祝除く)

HPより24時間受付 座席指定可 <http://www.concert.co.jp/>



[チケット取扱い]

▶チケットぴあ <https://t.pia.jp/> [Pコード286-105]

▶さがしげNewsCafe 018-874-8171 (10:00～19:00)

▶アートオフィスサイチ (千田佐市商店 文化事業部)

店頭・電話 018-874-9215 (8:30～17:00/水・日・祝除く)

公式LINE (24時間対応) 右QRコードより



※出演者及び曲目は変更される場合があります。ご了承ください。 ※未就学児のご入場はご遠慮ください。

主催：ABS秋田放送、アトリオン音楽ホール、コンサートイマジン 特別協力：秋田・潟上国際音楽祭

アルマ・ドイチャー (指揮者) Alma Deutscher (conductor)



マルチな才能の天才少女が20才の才媛に!!

アルマ・ドイチャーは2005年生まれ作曲家、ヴァイオリニスト・ピアニスト・指揮者である。2歳でピアノを、3歳でヴァイオリンを始め、6歳ではじめてのピアノ・ソナタ、9歳でヴァイオリン協奏曲を作曲した。指揮者のズービン・メータは、彼女を「今日最も偉大な音楽的才能を持ったひとり」と評した。サー・サイモン・ラトルはBBCにこう語っている。「アルマは天才だ。あの年齢でこれほど幅広い分野に驚嘆すべき才能を示す人物を他に知らない。こんな才能に出会ったのは本当にはじめてだ」と。作曲家のイェルク・ヴィトマンも、彼女のような才能あふれる人物にはまだ出会ったことがないと語った。また、ヴァイオリニストのアンネ・ゾフィー・ムターは、「この年若い少女が成し遂げたことは、まったくもって桁外れだ」と述べた。

アルマは2019年、ヨーロッパ文化賞を受賞しウィーン国立歌劇場での授賞式に出席、同年ドイツ誌『シュテルン』が選出する12人の「明日の英雄」の1人に選ばれた。さらに同年12月、アルマはニューヨークのカーネギーホールに全席完売でのデビューを果たし、長々と繰り返され

るスタンディングオベーションに迎えられた。彼女が作曲したオペラ『シンデレラ』は3大陸で上演され、いずれも完売となったが、「仮にそれが人生で一度きりのオペラ鑑賞であっても、観客を総立ちにさせ、喝采を叫ばせ続けるような作品」と評された。初のピアノ・ソロ・アルバム『From My Book of Melodies』はソニー・クラシカルから音源がリリースされ、楽譜がG.シャーマーから出版された。また、若いピアニストのためのアルバム『Alma's Piano Songs』も出版している。

自作曲のソリストとして、ルツェルン音楽祭、エクサンプロヴァンス音楽祭、北京音楽祭などの権威ある音楽祭に出演し、イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、ザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団、インディアナポリス交響楽団、深圳交響楽団などのオーケストラと共演している。

アルマは、ニューヨーク・タイムズ紙、ヨーロッパの主要紙はもとよりチャイナ・デイリー紙まで、世界中の著名な新聞で大きな特集やインタビューが組まれるなど、国際的な報道機関にも大々的に取り上げられている。また、世界中で数多くのテレビ番組にも出演し、2017年には二つの1時間番組「BBCドキュメンタリー」および「CBS 60ミニッツ」の取材対象となった。

現在アルマ・ドイチャーが弾くヴァイオリンは、アントニオ・ストラディヴァリ1683年製作ヴァイオリン(ブッチャー・ストラディヴァリウス、寛大なパトロンの好意により貸与)と、ペーター・グライナーの2015年製である。



<https://www.almadeutscher.com/>



ウィーン・シュトラウス・カペレ Strauss Capelle Wien

ウィーン・シュトラウス・カペレ(管弦楽団)、(登録名:シュトラウス・カペレ・ウィーン)の歴史は200年ほど前まで遡ります。設立者はヨハン・シュトラウスI世(1804年~1849年)で、このオーケストラの伝統的でエレガントな紅白の衣装は当時のオーストリア皇帝、フランツ・ヨーゼフI世が望んだもので、今日まで受け継がれています。

彼らの人気がいかに凄かったかの証拠であり、ウィーンワルツの流行はウィーンのみならずヨーロッパ中に拡大しつつあったのです。「ワルツの父」と呼ばれたシュトラウスI世が45歳の若さで亡くなる前から台頭してきていたのが息子のヨハン・シュトラウスII世(1825年~1899年)です。「ワルツ王」と言われ、たくさんのワルツやポルカ、オペレッタを残しました。次にヨーゼフ・シュトラウス(1827年~1870年)は兄に劣らずすぐれた作品を残し、さらに末弟のエドアルト・シュトラウス(1835年~1916年)も兄たちと同様に活躍しました。19世紀のヨーロッパ、ロシア、アメリカなど世界中でシュトラウス一家の作品が演奏され、一大ブームをもたらしました。ワーグナーやブラームスに絶賛され、ショパンやR.シュトラウス、チャイコフスキー、マーラーなどの作品に影響を与えました。

新年の世界的な風物詩にもなっているウィーン・フィルニューイヤーコンサートは1939年に始まった当初はジルベスター公演のみでしたが、1941年からは今日のように元旦に開催され、世界中にテレビ中継されています。この催しこそ、19世紀シュトラウス一家の活躍した時代のフルオーケストラでの再現であり、シュトラウス・カペレの時代の再現なのです。

シュトラウス・カペレの活動はコンサートホールなどができる前の時代でもありましたので、自然と演奏場所が酒場、娯楽場、レストラン、公園などの野外、あらゆる場所で演奏してきた事情があります。そのため、どこへでも移動しやすい機動性のある20数名から30名程度のオーケストラスタイルで活動してきたのです。この伝統をシュトラウス・カペレは今でも維持しています。

このように、シュトラウス一家が作り上げてきた魅惑的なオーストリアの伝統的文化遺産を守りながらも、常に新しい息吹を吸収し、世界中の音楽ファンと共に歩み続けているのが、ウィーン・シュトラウス・カペレなのです。

